

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

多様な人々が集う定時制の課程で、勉強がわかる喜び・人に認められ人と理解し合える喜び・夢や志を抱く喜びを伝え、生徒たちに生き生きとした生活を保障する学校をめざす。

1. 生徒が自分の未来を創造できる学校
2. 生徒一人一人が大切にされる安全で安心な学校
3. 地域・家庭と連携し、協力して生徒を育てる学校

## 2 中期的目標

## 1 勉強がわかる喜びを伝える

(1) 授業内容が「分かること」の楽しさを体験することで、「学ぶこと」に意欲をもつ生徒を育てる。

ア 全教員で、生徒が「分かった」と実感できる授業づくりに取り組み、学力の定着及び出席者の増加を図る。

- ① 生徒の学力に応じたわかりやすい教材を作成し授業を行う。
- ② ICTや視覚教材を用いた授業および参加体験型の授業を導入し、生徒の学習意欲を高める。
- ③ 授業見学、研究授業等により、各教員が指導法の工夫・改善に取り組む。

※生徒による授業アンケートで「生徒意識」(①授業内容に興味・関心を持つことができた。②授業を受けて知識や技能が身についた。)の肯定的回答(平成26年度75%)を平成29年に80%以上にする。

※学校教育自己診断で「学校の授業はわかりやすい」(平成26年度は56%)を平成29年度には80%にする。

イ 全教員で授業規律について指導する意識を共有し、生徒が落ち着いて学習できる環境づくりに努める。

※学校教育自己診断の「授業中は落ち着いて学習できる雰囲気である」(平成26年度は50%)を平成29年度には70%にする。

ウ ア、イを実践した結果として、生徒の授業への出席人数を増やし、中退防止につなげる。

※1年生の進級率(平成26年度30.9%)を平成29年度は50%にする。 ※中退率H26年度20.6% → H30年度末 11.1%にする。

## 2 人に認められ人と理解しあえる喜びを伝える

(1) 命の大切さ・人権意識・善悪の判断など、人間としての基本的な倫理観や規範意識を育てる。

ア 生徒指導時のみならず、教科の学習およびHR・総合的な学習の時間等も含めた教育活動全体を通して指導する。

※生徒向け学校教育自己診断における「命、社会のルール」の肯定的回答(平成26年度66%)を平成29年度には75%以上にする。

(2) 様々な教育活動で人と関わる体験を通して、コミュニケーション能力の育成を図る。

ア 挨拶ができる生徒を育てる。

イ 生徒会行事等を通して、リーダーとして活動できる生徒の育成を図るとともに、仲間とともに行事に参加できる生徒を育てる。

ウ 各種行事において、保護者や地域住民および地域の中学校教員と積極的に連携・交流を図る。

エ ボランティア活動や部活動等を通し、学校に対する誇りと自己肯定感を育てる。

※学校行事等で来校する保護者や家族の数を、前年比5%を目標に増やす。

(3) 生徒指導に際して、各教員が生徒との人間関係を最大限大切にしながら、家庭・中学校・地域との連携を密にして取り組む。

※学校教育自己診断における「先生の指導について理解できる」(平成26年度64%)を平成29年度には80%以上にする。

※1年生の進級率(平成26年度30.1%)を平成29年度は50%にする。

(4) 中退防止コーディネーターを中心に困難を抱える生徒への支援体制を整える。

※中退率H26年度20.6% → H30年度末 11.1%にする。

## 3 夢や志を抱く喜びを伝える

(1) 生徒が自己の将来について考え、自らの生き方を選択できるように進路指導の充実を図る。

ア 4(3)年間の進路指導方針を元に、各学年における具体的な進路の取り組みを明確化する。

イ 進路に関する十分な情報を生徒に提供するとともに、保護者にもその情報が届くようにする。

ウ 進路ガイダンス機能の充実を図るとともに、個々の生徒のニーズに合った進路指導をする。

エ 全教員で進路指導に取り組む校内体制を築く。

オ 就業体験をする生徒を増やす。

※卒業生徒の進路決定率(平成26年度53%)を平成29年度には60%以上にする。

※生徒向け学校教育自己診断における「進路指導満足度」(平成26年度56%)を平成29年度には75%以上にする。

(2) 「様々な課題を抱える生徒の高校生活支援事業」を活用し、平成31年度までに、文部科学省が公表する平成26年度全国公立高等学校定時制課程の中途退学率の11.1%以下を目標とする。

※中退率H26年度20.6% → H30年度末 11.1%にする。(年3.2%下げる)

## 4 組織の活性化と人材育成

(1) 校内組織の活性化と職務の効率化の取り組み

ア 校務検討委員会を中心に学校改革を推進する。

※准校長の諮問機動的な役割を担う。

イ 緊急災害対応時における教職員組織の明確化

(2) 首席を中心に、経験年数の少ない教員の育成に取り組む

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【学習指導】</b></p> <p>・この2年間、全教員で、生徒が「分かった」と実感できる授業づくりに取り組んできた結果、生徒の「学校の授業はわかりやすい」に対する肯定率は H26→H27→H28 で 74%→75%→80% と着実に伸びてきている。また保護者向け「学校の授業の内容はわかりやすいようだ」に対する肯定率も 74%→75%→85%と伸びてきている。その理由の1つ目は先生方がわかりやすい授業をしなければならないという意識をもって授業に臨んでいることであり、2つ目は ICT 機器利用が促進されたことである。「学校の授業は、プリント、スライド、映像等の補助教材も使うなどの工夫をしている」の肯定率は 51%→72%→85% と劇的に伸びている。理由の3つ目は授業中の携帯指導の徹底である。「学校の授業中は、落ち着いて学習できる」に対する肯定率は 50%→64%→66%と伸びてきている。</p> <p>しかしながら、授業に遅刻してくる生徒がいるので、今後取組みを考えていく必要がある。</p> <p><b>【生徒指導】</b></p> <p>・この2年間、全教職員でコミュニケーション力の基本である挨拶の徹底指導に取り組んできた。その結果、生徒向け「自分はいさつをするようになった」に対する肯定率は H27→H28 で 67%→77%、保護者向け「子どもは、以前と比べるといさつをするようになったと思う」に対する肯定率は H27→H28 で 75%→79%、教職員向け「教職員に対して挨拶をする生徒が増えている」に対する肯定率は H27→H28 で 95%→97%である。これは教職員の方から生徒に対して挨拶を徹底して行っているからであり、毎月一回開かれる全校集会で繰り返し生徒に挨拶の必要性を説いているからである。</p> <p>・また全教職員で生徒に寄り添い、生徒に傾聴する指導を行った結果、「学校生活についての先生の指導については理解できる」に対する肯定率は H26→H27→H28 で 64%→77%→83%と伸び続け、保護者向け「学校の生徒指導の方針は理解できる」に対する肯定率は 82%→84%→85%と高い水準で推移している。</p> <p>・生徒会行事の活性化についても「体育祭、文化祭などの学校行事はみんなが楽しく行える」に対する肯定率は H26→H27→H28 で 61%→62%→80%と伸びている。</p> <p><b>【学校運営】</b></p> <p>・校内研修が教育実践に役に立つような内容になっていないのが課題であったが、今年度は先生方のニーズを考えた計画的な研修を行った結果「校内研修は、教育実践に役立つような内容になっている」に対する肯定率は H27→H28 で 51%→79%となった。</p>	<p><b>第1回【平成 28 年 7 月 1 日実施】</b></p> <p>○子どもは親の言うことをなかなか聞いてくれないので、学校で社会に出るためになぜ高校を卒業しなければならないのか、しっかりと指導してほしい。</p> <p>○3年ないし4年間で卒業をするためには、友達と居場所が必要である。学校に居場所がなくてはならない。</p> <p>○禁煙指導、あいさつ運動、携帯電話指導等のように毎年ひとつ、新しいルールを課していけば、さらに、学習環境・学校環境が整っていくのではないかな。</p> <p>○学校行事等で、地域との連携を深めていくために体育祭で競技だけではなく、「テニス初心者コーナー」「体力測定」など、地域の人が参加しやすいものを用意するのはどうか。</p> <p>○他校との連携や情報交換をしながら切磋琢磨してよりよい学校づくりをめざしてほしい。</p> <p><b>第2回【平成 28 年 11 月 30 日実施】</b></p> <p>○（今年度から取り組みを始めた）生徒の保健委員会活動が、クラブ等、どこにも所属していない生徒の活動の場になればよい。</p> <p>○ICTの活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイントなどのスライドを使えば、授業を欠席した生徒へ授業内容を容易に配付することができるのではないかな。</li> <li>・スライドは、復習に紙芝居方式で使えるので効率がよい。プリントアウトして配付してもよい。</li> <li>・図書室のパソコンや携帯からも授業で使ったスライドを閲覧できるようにすればよいのではないかな。</li> </ul> <p>○明月祭（文化祭）は、以前よりも生徒たちが主体的に活動し、いきいきとしていた。</p> <p>○小中学校を通して不登校だった生徒が、定時制で活躍している。障がいがある生徒も頑張っている。そんな生徒たちの姿を見て嬉しかった。</p> <p>○教師が、「これが大事である」と教えるよりも、生徒が自分にとって大事なことだと捉える事ができるかどうか、自分にプラスになることに能動的になることができるかが大切である。</p> <p>○教室で誰か話をしているときに、教師が「聞きなさい。」と指導すると、指導しなければ静かに聞くことができないようになってしまう。状況を判断して、自分は今何をしなければならないかを考えさせることが重要だ。転ばぬ先の杖を用意しすぎて、生徒がやっていることに対しての意義を見失ってしまうことが心配だ。中学校で力足らずの所を定時制が補ってくれていると感じる。</p> <p><b>第3回【平成 29 年 2 月 17 日実施】</b></p> <p>○ICT機器を活用した授業をさらに充実させていく。</p> <p>○データの共有化と、それをさらに練り上げていく努力・工夫をする。</p> <p>○授業態度も良い方向に変化している。日頃から生徒との信頼関係を築く努力をすること。</p> <p>○授業の質をあげることが大切だ。習っていることが社会で役立つと知れば、生徒はもっと学校へ来るようになる。</p> <p>○学校生活上してはいけないことに対しては、毅然と注意する指導を積極的にしてもらいたい。</p> <p>○就職率を上げるために、さまざまな履歴書の事例について学習する機会を作るなど、履歴書の書き方指導を工夫すること。</p> <p>○生徒が自ら何かを計画して取り組むと変わる。授業も同じである。生徒自信が役立つと思う授業展開を努力してほしい。</p> <p>○学校教育自己診断の評価結果を受けて、各分掌等での分析・検討が非常によくできている。これらに基づいてさらに前進してほしい。</p>

## 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 勉強がわかる喜びを伝える	<p>(1)「分かること」の楽しさを体験できる授業づくり</p> <p>ア 生徒が「分かった」と実感できる授業づくりに取り組み、学力の定着及び出席者の増加を図る。</p> <p>イ 全教員で授業規律について指導する意識を共有し、生徒が落ち着いて学習できる環境づくりに努める。</p> <p>ウ ア、イを実践した結果として、生徒の授業への出席率を増やし、中退防止につなげる。</p>	<p>ア・授業ではわかりやすく説明をする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で生徒に質問をしたり、生徒に意見を聞くなどして生徒とコミュニケーションを取る</li> <li>・授業の中で生徒に考えさせる時間をとる</li> <li>・生徒の学力に応じた教材の作成や補助教材（ICTや視聴覚教材）の使用等により工夫して授業を行う</li> </ul> <p>・授業見学、研究授業、研修等により、各教員が指導法の工夫・改善に取り組む。その際に教育実践に役立つよう内容を精査する。</p> <p>イ・生徒の授業態度について学校で統一した指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中の携帯電話の指導を学校で統一して行う。</li> </ul>	<p>ア・学校教育自己診断で「学校の授業の説明はわかりやすい」の肯定的回答率を3%向上させる（H27,75%）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケート「先生は授業中生徒とコミュニケーションを取っている」の「よくあてはまる」を3%向上させる（H27,52%）</li> <li>・「先生は色々な教材を工夫して授業を行っている」の「よくあてはまる」を3%向上させる（H27,45.1%）</li> <li>・「授業内容に興味関心を持つことができた」の「よくあてはまる」を3%向上させる（H27,42.5%）</li> <li>・「授業を受けて知識や技能が身に付いた」の「よくあてはまる」を3%向上させる（H27,44.6%）</li> <li>・年3回以上研究授業や授業研修を行う。</li> </ul> <p>イ・学校教育自己診断で「落ち着いて学習できる雰囲気である」の肯定率を3%向上させる（H27,64%）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケート「私は授業中、携帯・居眠り・私語をしていない」の「よくあてはまる」を3%向上させる（H27,45.6%）</li> </ul> <p>ウ・1年生の進級率（H27,46%）を2%向上させる</p>	<p>ア・学校教育自己診断「学校の授業の説明はわかりやすい」の肯定的回答は5%向上し80%になった。平成29年度の達成目標が達成できたことになる。今後90%に近づきたい。（◎）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケート「先生は授業中生徒とコミュニケーションを取っている」の「よくあてはまる」は4.6%向上（○）</li> <li>・「先生は色々な教材を工夫して授業を行っている」の「よくあてはまる」は6.7%向上（◎）</li> <li>・「授業内容に興味関心を持つことができた」の「よくあてはまる」は3.8%向上（○）</li> <li>・「授業を受けて、知識や技能が身に付いた」の「よくあてはまる」は4%向上（○）</li> <li>・年3回の研究授業、2回の授業研修を実施、職員会議でのデモ授業も実施（○）</li> <li>イ・学校教育自己診断で「落ち着いて学習できる雰囲気である」の肯定率は2%向上（△）</li> <li>・授業アンケート「私は授業中、携帯・居眠り・私語をしていない」の「よくあてはまる」は17.1%向上（◎） これは授業中の携帯指導を徹底した結果だと考えられる。</li> </ul> <p>ウ・学年全体レクリエーションを今年度3回実施するなど、友人作りを推進している。（H28,46%（△））</p>

## 府立寝屋川高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 人に認められ、人と理解しあえる喜びを伝える</p>	<p>(1) 基本的な倫理観や規範意識を育てる。 ア 教科の学習およびHR・総合的な学習の時間等も含めた教育活動全体を通じた指導</p> <p>(2) 人と関わる体験を通して、コミュニケーション能力の育成を図る。 ア 挨拶ができる生徒を育てる。</p> <p>イ 生徒会行事等を通じたリーダーの育成、仲間とともに行事に参加できる生徒の育成。</p> <p>ウ 各種行事において、保護者や地域住民および地域の中学校教員と積極的に連携・交流を図る。</p> <p>エ ボランティア活動や部活動等を通し、学校に対する誇りと自己肯定感を育てる。</p> <p>(3) 生徒指導に際して、各教員が生徒との人間関係を最大限大切にしながら、家庭・中学校・地域との連携を密にして取り組む。</p> <p>(4) 中退防止コーディネーターを中心に困難を抱える生徒への支援体制を整える。</p>	<p>ア・外部人材等を有効活用し、HR及び総合的な学習の時間を計画的に実施することで、「学ぶこと」・「生きること」・「社会とのかかわり」について考える機会を設ける。</p> <p>(2) ア ・教職員から生徒に挨拶の声掛けをするとともに、機会があるごとに挨拶の大切さについて生徒に伝える。 ・始業・終業時に挨拶ができるようにする。</p> <p>イ ・生徒を中心とした生徒会行事の企画運営を行う。 ・行事に参加する生徒の人数を増やす。</p> <p>ウ ・各種行事に対する広報活動の活発化 ・体育祭・文化祭へ地域の方を招待する</p> <p>エ ・ボランティア活動の継続 ・部活動の活性化をする</p> <p>(3) ・生徒に対し傾聴し、理解し、話し合いによる指導を実践する。 ・経験年数の少ない教員に対して生徒との接し方についての講習を行う。</p> <p>(4) 中退防止コーディネーターを中心にSCやSSWとともに、困難を抱える生徒への支援体制を整え、生徒個々に対応した指導をおこなう。</p>	<p>ア・学校教育自己診断における「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある」の肯定的回答率を3%向上させる (H27, 67%)</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断の「先生に挨拶をしている」の肯定的回答率を3%向上させる (H27, 67%)</p> <p>イ・学校教育自己診断「体育祭、文化祭などの学校行事はみんなが楽しく行っている」の肯定的回答率を3%向上させる (H27, 62) ・行事の生徒参加率を3%増やす (H27, 体育祭 35.9%、文化祭 42.0%)</p> <p>ウ・体育祭、文化祭に来校する保護者、地域住民、中学校教員の人数を前年度より増やす (H27、合計 276名)</p> <p>エ・ボランティア活動の継続 ・部活動参加人数 (H27, 114名)を増加させる</p> <p>(3) ・学校教育自己診断における「先生の指導について理解できる」の肯定的回答率を3%向上させる (H27, 77%) ・講習実施の有無</p> <p>(4) 中退率を18.1%にする。(H26、20.6%)</p>	<p>ア・実施した人権HRの内容 5/20 いじめについて 6/3 お互いが嫌な気持ちにならないような振る舞い方 11/25 人の話を理解する方法 ・学校教育自己診断「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある」の肯定率 10%向上(◎)</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断の「先生に挨拶をしている」の肯定率は10%向上。2年間教職員の方から挨拶をする取組を継続実施した結果、多くの生徒が挨拶をするようになってきている。(◎)</p> <p>イ・学校教育自己診断「体育祭、文化祭などの学校行事はみんなが楽しく行っている」の肯定率は18%向上。定時制の学校文化が根付き始めていると感じる。(◎) ・生徒参加 体育祭 13.5%向上(◎) 生徒参加 文化祭 4.5%向上(○)</p> <p>ウ・外部からの来校者 体育祭 92名 文化祭 245名 合計 337名 (61名増加) (◎)</p> <p>エ・ボランティア清掃は今年度も5回継続実施(○) ・部活動参加人数 100名(△)</p> <p>(3) ・学校教育自己診断における「先生の指導について理解できる」の肯定率6%向上。日々生徒に寄り添う指導を実践している結果である。(◎) ・初任者、経験の少ない先生を対象に首席が中心になり座談会を開催。また、複数担任制のため経験の少ない教員は、もう一方の担任から日々学んでいる。(○)</p> <p>(4) 生徒に寄り添い、丁寧に話を聞く指導を継続するとともに、中退防止のための施策を討議している。 (3月31日現在の中退率 15%)</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 府立寝屋川高等学校

<p style="text-align: center;"><b>3</b> 夢や志を抱く喜びを伝える</p>	<p>(1) 進路指導の充実を図る。</p> <p>ア 4(3)年間の進路指導方針を元に、各学年における具体的な進路の取り組みを明確化する。</p> <p>イ 進路に関する十分な情報を生徒に提供するとともに、保護者にもその情報が届くようにする。</p> <p>ウ 進路ガイダンス機能の充実を図るとともに、個々の生徒のニーズに合った進路指導をする。</p> <p>エ 全教員で進路指導に取り組む校内体制を築く。</p> <p>オ 就業体験をする生徒を増やす。</p> <p>(2) 「様々な課題を抱える生徒の高校生活支援事業」を活用し、平成31年度までに、文部科学省が公表する平成26年度全国公立高等学校定時制課程の中途退学率の11.1%以下を目標とする。</p>	<p>ア・進路保健部を中心に、学年別の進路学習計画を活用しより充実した進路指導を展開する。</p> <p>イ・進路のHRや総合的な学習の時間を進路指導計画の中で明確に位置づけ、情報提供を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部機関と連携し、生徒が色々な人の生き方に触れる機会を設ける</li> <li>生徒に提供した情報が保護者にも届くようにする。</li> </ul> <p>ウ・担任が意識して生徒と話し合うとともに、担任と進路の連絡を密にする。</p> <p>エ・求人の新規開拓等には全教員で取り組み、卒業学年の進路決定を支援するとともに、各教員の進路指導のスキルアップを図る。</p> <p>オ・一人でも多くの生徒が就業体験できるように、アルバイト等を紹介する。</p> <p>(2) 中退防止コーディネーターを中心にSCやSSWとともに、困難を抱える生徒への支援体制を整え、生徒個々に対応した指導をおこない、セーフティーネット機能の強化を図る。</p>	<p>ア、イ、ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断における「自分の将来について考える機会がある」の肯定的回答率を3%向上させる (H27, 73%)</li> <li>生徒向け学校教育自己診断における「学校は就職や進学についての情報を十分に知らせてくれる」の肯定的回答率を3%向上させる (H27, 77%)</li> <li>保護者向け学校教育自己診断における「学校は、就職や進学について、適切な指導を行っている」の肯定的回答率を3%向上させる (H27, 76%)</li> <li>外部機関との連携の有無</li> <li>卒業生の進路決定率が平成26年度は高く60%であった。(H24, 40%、H25, 50%、H27, 55.8%) H28年度も60%をめざす</li> <li>指定校求人票の数を増やす (H27, 18人)</li> <li>全教員で企業訪問を行えたか。</li> <li>5月時点の就業率よりも年度末の就業率を5%高くする。</li> <li>(2) 「高校生活支援カード」「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成と活用</li> <li>中退率を18.1%にする。(H26, 20.6%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自分の将来について考える機会がある」の肯定率は同じにとどまる。生徒に主体的に考えさせる機会の設定が今以上に必要である。(△)</li> <li>「学校は就職や進学についての情報を十分に知らせてくれる」の肯定率6%向上(◎)</li> <li>保護者向け「学校は、就職や進学について、適切な指導を行っている」の肯定率10%向上(◎)</li> <li>外部機関との連携 紳士服販売企業「身だしなみ講座」、日本ファイナンシャルプランナーズ協会「パーソナルファイナンス講座」、大阪司法書士会「ブラック企業、ブラックバイト」等の講演実施(○)</li> <li>3月末の進路決定率59%(○)</li> <li>3月末24名の指定校求人あり(○)</li> <li>全教員での企業訪問を実施済み(○)</li> <li>5月時点の就業率57% 3月末就業率63% 6%高くなる(○)</li> <li>必要な生徒に対しては作成済み。(○)</li> <li>生徒に寄り添い、丁寧に話を聞く指導を継続するとともに、中退防止コーディネーターを中心にSC(スクールカウンセラー)、SSW(スクールソーシャルワーカー)の活用を図っている。(3月31日現在の中退率15%)</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>4</b> 校内組織の活性化と人材育成</p>	<p>(1) 校内組織の活性化と職務の効率化の取り組み</p> <p>ア 校務検討委員会を中心に学校改革を推進する。</p> <p>イ 緊急災害対応時における教職員組織の明確化</p> <p>(2) 首席を中心に経験年数の少ない教員の育成に取り組む</p>	<p>ア・本校の将来めざすべき方向性、取り組むべき施策、解決すべき課題について具体的な取り組みを話し合い提案する。</p> <p>イ・緊急災害対応時における教職員組織と対応方法の明確化</p> <p>(2)・首席が中心となり、経験年数の少ない教員の育成を主眼とした研修を計画し、実施する。</p>	<p>ア・具体的な提案がなされたか</p> <p>イ・緊急災害時対応マニュアルを活用した実践的な避難訓練の継続実施</p> <p>(2)・年間に3回以上の育成のための研修が実施できたか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての教職員研修についての学校教育自己診断「校内研修が教育実践に役立つような内容になっている」の肯定的回答率を5%上げる。(H27, 51%)</li> </ul>	<p>ア・来年度からの英数国の1年生の授業での習熟度別クラス分けについての計画を立案した(○)</p> <p>来年度からの授業遅刻の指導強化についての施策を立案した(○)</p> <p>イ・地震災害マニュアルをもとに職員研修会を開催し、11月11日(金)に校内の明かりを消しての避難訓練を実施した。(○)</p> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>初任者、経験の少ない先生方で首席が中心になり座談会を開催。また、複数担任制のため経験の少ない教員は、もう一方の担任から日々学んでいる。(○)</li> <li>先生方のニーズを考えた計画的な研修を行った結果「校内研修が教育実践に役立つような内容になっている」の肯定率は28%向上(◎)</li> </ul>